

第4次大分市国際化推進計画 第1回策定委員会概要

項 目	内 容
開催日時	令和2年7月28日（火）9：30～＜委嘱状交付式＞ 令和2年7月28日（火）9：40～＜第1回策定委員会＞
会 場	大分市議会棟3階 課長控室
出席者 (交付式)	井本委員、太神委員、疇谷委員、佐野委員、下田委員、辛委員、 ジェンバ委員、馬場委員、原委員、伊藤企画部長、佐藤教育部長
出席者 (委員会)	井本委員、太神委員、疇谷委員、佐野委員、下田委員、辛委員、 ジェンバ委員、馬場委員、原委員、伊藤委員、佐藤委員
次 第	1 策定委員自己紹介 2 事務局紹介 3 委員長・副委員長の選出 4 委員長あいさつ 議 事 1 会議の公開・非公開の取扱いについて 2 第3次計画の概要及び取組み状況について 3 第4次計画策定について 4 大分市の国際化推進に関するアンケート調査について 5 今後のスケジュールについて 6 その他

【概 要】

委嘱状交付式

1. 委嘱状交付

2. 伊藤企画部長あいさつ

▽委員をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。

▽現行の「第3次大分市国際化推進計画」は、平成28年に策定いたしました。

▽近年では、急速な技術の発展などにより、人や物、情報の流れは地球規模に拡大され、国際交流は市民にとっても身近なものとなっている中、新型コロナウイルス感染症拡大により、新たな形による国際交流・国際協力、また、アフターコロナも見据えていかなければなりません。

▽日頃より様々な分野において国際交流、国際協力、多文化共生に取り組まれ、それぞれの分野に造詣の深い委員の皆様方には、それぞれのお立場から忌憚のないご意見ご提言を賜りますようお願い申し上げます。

第1回策定委員会

開 会

1. 策定委員自己紹介

2. 事務局紹介

3. 委員長・副委員長の選出

■委員長⇒下田憲雄 大分大学学長特命補佐・経済学部教授

■副委員長⇒疇谷憲洋 大分県立芸術文化短期大学国際総合学科学科長・教授
にそれぞれ決定

4. 委員長あいさつ

▽大分市の国際化について、皆様のご意見を伺いながら計画に反映させていただき、より実効性のある計画として参りたいと考えております。

議事1

会議の公開・非公開の取扱いについて

■原則公開に決定

■会議の内容に応じ、部分的に非公開とする場合等にはその都度、委員会として判断する。

議事2

第1次計画の概要及び取組み状況について

■事務局より説明

(1) 第3次計画の位置付け、概要

(2) 第3次計画の施策・目標（主な取組み状況）

(3) 第3次計画の数値目標

■質疑応答

委員	施策1目標②「国際化の情報に関心を持とう」という項目の数値目標として、Facebookも数値化をしているが、データで見てもあまり意味のない目標だと思われる。Facebookより、他の情報提供サービスの方がよいのではないか。
委員	情報を出すターゲットが外向けならば、インスタグラムのような写真を前面に出せるものの方がよいのではないかと。
事務局	以前は「国際交流WEB」というホームページを作成して情報提供をしていたが、時代の流れによりFacebookに転換したという経緯がある。

<p>副委員長</p> <p>委員</p> <p>委員長</p>	<p>現在では、委員の言う通り、Facebook については閲覧者が変わってきているというデータも出てきているので、4 次計画では情報発信のツールについては改めて検討していきたいと思う。</p> <p>また現行の Facebook ページは、日本人向けには国際交流事業やイベントの情報など、外国人に対しては外国語での生活情報や防災情報の提供などを行っている。</p> <p>Facebook はリンクすることで情報を展開できるのだが、目標数値のフォロワー318 件はそもそも少ないと感じる。</p> <p>Facebook は誰でも「いいね」のボタンを押せば情報をシェアできるようになっているので、友達というより、あくまで情報を知りたいとしている人の数である。</p> <p>第 3 次計画の現状がこういうことだと知ること、どうやって第 4 次計画に反映させていくかを今後考えていきましょう。</p>
<p>委員</p> <p>副委員長</p> <p>委員長</p>	<p>施策 1 目標①「外国人と直接触れ合い、世界へ目を向けよう」については、「直接触れ合う」ということは重要だがこのコロナの環境の中ではなかなか難しくなっている、別の形についても幅広く取り込めることができたと思う。</p> <p>先ほど「コロナ後のことを考えていこう」というご意見もあったが、むしろ ZOOM などのツールを使って地方都市をアピールしていくいい機会だと思う。大分市の姉妹都市であるアメリカのオースチン市、ポルトガルのアベイロ市は距離的にとても遠いが、例えば ZOOM などを使って定期的にやり取りもできるし、市長サミットのようなこともできるのではないかと思う。</p> <p>発想を変えて「直接」ということにこだわらない考え方もありつつ、アフターコロナについても同時に検討していく、という形が望ましいのではないかと思う。</p> <p>これらの意見は、4 次計画策定にあたり、今後のあり方として参考になると思います。</p>

委員	施策 2 目標②「海外ビジネスにチャレンジしよう」について、目標値に対して現状の件数が少なく、数字だけ見るとコロナ禍の中で目標を達成できるのか不安である。
委員	海外への経済交流支援企業数の目標や実績については、何をもって支援とするか、ということにもよると思う。一件ずつ、初歩のころから支援をする場合は手間がかかるので、件数として 2019 年度 74 件というのはおそらく相当に支援した実績になると思われるし、一方で、セミナーに一度でも参加した企業も加えると、おそらく 70 件だけとはいわない相当な数になると思う。 いずれにしても、何かご案内するときに JETRO を案内していただければ、すべて協力することができるかと思う。
事務局	ビジネスの部分は弱いところでもあるので、ぜひご協力をお願いしたいと思う。

議事 3

第 4 次計画策定について

■事務局より説明

(1) 政府等の動向について

- ・ 姉妹都市を活用した国際交流の始まり
- ・ 1987 年「地方自治体における国際交流の在り方に関する指針」
→ 国際交流施策の大枠を提示
- ・ 1989 年「地域国際交流推進大綱の策定に関する指針」
→ 都道府県・政令指定都市へ国際交流のためのガイドライン策定を求める
- ・ 1995 年「自治体国際協力推進大綱策定に関する指針」
→ 国際協力について自治体の施策立案を求める
- ・ 2006 年「地域における多文化共生推進プラン」
→ 多文化共生を総合的かつ政策的に推進することを求める
- ・ 2012 年新たな在留管理制度がスタート
→ 外国人が住民登録され、日本人と同様にサービスを受けることができる
- ・ 2016 年・2019 年入管法の改正
→ 新たな在留資格を創設することで、外国人に労働者として門戸を開放

(2) 第 4 次大分市国際化推進計画策定の趣旨、位置づけ、期間、体制

(3) 第 4 次大分市国際化推進計画の体系

(4) 県の動向について

- ・ 2019 年「大分県海外戦略」

■ 質疑応答

<p>委員長</p>	<p>第 3 次計画の経過も踏まえ、さまざまな分野でご見識のある委員の皆様にご提言いただくと、4 次計画が、違った次の段階の計画になっていくと思います。より良いものとなると思います。</p>
<p>副委員長</p>	<p>第 3 次計画の概要版を見ると、国際化が「Internationalization」と書かれているが、今は「Globalization」が大事になっている。 例えば中期的な戦略として、これまでも交流のある姉妹友好都市を軸に展開していくのか、大分市をプラットフォームとしてその他の様々な国々とつながりを持っていこうという戦略なのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>第 2 次計画までの中では、姉妹友好都市を中心とした国際交流の広がりとしていたが、第 3 次計画では姉妹友好都市にとらわれることなく、幅広い国々と幅広い分野による交流を行う、と変わってきた。</p>
<p>副委員長</p>	<p>「幅広い」となると、どのような形で広がっていくということを想定していたのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>第 3 次計画期間にはラグビーワールドカップもあり、世界各国から大分を訪問されるだろうということから、特定の地域をターゲットとするものではない、とした。 新型コロナウイルスの関係で、今後直接大分に来て何かするというのも大事だが、一方でインターネットなどを使った戦略なども今後重要となってくると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>配布資料 3-4「市民アンケート（集計結果報告）」を見ると、アンケートの実施がラグビーワールドカップ後となっているが、国際化が重要だと回答されている方が少ないので、3 次計画の中にある「まちの活性化につながる国際交流」につながっているのかが疑問である。市民に国際化の重要性を認めてもらわなければならない。</p>
<p>事務局</p>	<p>このアンケート調査は、市の全施策に関することについて調査をしたもので、福祉関係の施策など市民の生活に身近なことに比べたら、国際化施策はそうではないかもしれな</p>

<p>委員</p>	<p>い。そういった中で重要度としては低いとなっているが、満足度としては高いという評価となっているので、このアンケート調査のなかでは、国際化施策については「このまま維持していくべき施策」という分析がされている。</p> <p>この手のアンケートでは、生活の基盤となる項目についてはどうしても関心が高い傾向にあり、例えばスポーツや文化芸術の振興などについては、どうしても関心度が低い傾向になりがちである。生活の基盤が出来上がったさらにその上にこういうものがあると生活が豊かになる、といった項目である。</p> <p>つまり重要度が低いとの回答が得られたのも、そもそも関心度が低いからだと分析できて、そこはこの会議の中で、国際化に関心を持つということを示すだけでも伸ばす、ということを考えていくということが一つあるのではと思う。</p> <p>関心を持つ、ということであれば、ラグビーワールドカップであれだけの国々の人々と市民の皆さんが入り乱れて盛り上がったということは、割と市民の中には鮮明な記憶として残ったのではないかという感触がある。だからこの時期、遠隔でも大分の魅力を発信しつつ、海外とも継続してつながっていく、それも市民参加型として進めていくと、ワイドな国際化が進んでいくのではないかと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>30年くらい前は県内企業と話していると国際化には全く関心なかった。それで当時は、どうすれば大分県内から物を集めることができるのかという議論からスタートしていたが、今は逆に、県内でも海外との取引や、海外に関連企業があったりする。そういった形で、国際化も順番に広がってくるのかなという思いもある。</p> <p>特に「日本人総グローバル化」と言い出し、市民の中でそう位置づけられてきたのは最近の話であるし、そういった中で、もっと市民全体が国際化に関心をもって意見を持つようになると、まちも変わっていくのではないかと思うが、順次計画を立てて進めていくことが重要なのかなと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>これからは、アフターコロナ、ウィズコロナの時代といわれていく中で、ますます SNS を活用する形で、事業などを発信して行くことが欠かせないのかなと思っている。</p> <p>そういった中、情報発信については Facebook 以外、インス</p>

事務局	<p>タグラムや YouTube などの活用についてはどのように考えているのか。インスタグラムについては、写真の発信がメインでなかなか行政にとっては使うのが難しいかとは思われるが。</p> <p>弊機構本部では、動画配信を通じて、国際協力について難しくなくポップな感じで親しみやすく伝えられるようにしている。</p> <p>大分市でも、動画などを通じて国際化についても PR はできると思うが、大分市としてのスタンスはどうか。</p> <p>情報発信ツールについては、特に Facebook に限っているわけではなく、インスタグラムやその他のツールに関しても常に情報収集しながら、より効果的な物や手法を取り入れていきたいと考えている。</p>
委員長	<p>大分市としての広報体制としてはどうなっているのか。</p>
委員	<p>大分市では、広報専門の担当審議監を置いてあり、その職員を中心に広報戦略を実施しているが、国際化に関してもその一環として行っており、動画による広報も、大分市の風景や、高崎山の猿を活用し大分市の魅力を紹介する動画「SARU TABI (さるたび)」など、YouTube を使い行っている。国際化の情報発信についてもこの体制の一環として、単独ではなく広報部門と相談しながら行っている。</p>
委員	<p>3次計画では、施策2目標①「海外からの観光客を『おもてなし』し、大分のファンを増やそう」</p> <p>目標③「国際職をプラスし『まち』ににぎわいを作ろう」というところはすごく重要だと思う。</p> <p>例えば中国では、Google や YouTube は上海や北京など大きい都市だけで浸透しており、ウェイボーやウィーチャットなど中国独特のシステムを使っているのがほとんどなので、このようなツールを使うことも観光客を呼び込むことや魅力の発信、にぎわいの創出につながってくると思う。</p>
委員長	<p>確かに、中国では ZOOM など欧米系のツールは一切つながらない。戦略として実際に活用するかどうかという議論の余地はあろうかと思うが、ウィーチャットの活用なども検討が必用になるのではないかと思われる。</p>

委員	<p>小学校の英語教育も始まっているが、小学校低学年や幼稚園児との外国人との触れ合いについてはどのようなものになっているか。</p>
事務局	<p>大分市では、大学コンソーシアムおおいたへの委託事業として、保育園や幼稚園に留学生を派遣して交流を行う「留学生活用事業『おでかけ ENGLISH』』というものを実施している。</p> <p>今年度当初の計画では、年間 20 か所に 5 人ずつの留学生を派遣するというものだったが、コロナウイルスの影響でアルバイト収入が減少した留学生の支援という立場からも、1 回の留学生の派遣を 10 人に、派遣場所を 32 か所に拡大をするようにしており、留学生にとっても幼稚園等にとっても、双方にメリットがある事業として好評を得ている。</p>
委員長	<p>大学の方にも、近い校区の小学校などから直接依頼が来る場合もあり、留学生が訪問している。</p> <p>そういう報告が市に上がってきているかはわからないが、報告が行っていれば実際は交流人数の数値としてはもっと多いのではないかと思う。</p>
事務局	<p>市としては、市の実施している事業としての人数は各課から報告があり把握しているが、その他については把握できていない。</p>
委員	<p>教育委員会ですが、ALT の現状は 31 人。学習指導要領の改訂により、今年度より小学校 5、6 年生も英語が教科化され、これまで 5、6 年生の英語活動が 3、4 年生に降りてきた。そして、余剰時間を活用して 1、2 年生にもある程度英語活動を実施しているところである。</p>

委員	ALTは今後増員していく予定か。
委員	ALTは8月か9月で任期を迎え交代となるが、9月には37人を予定している。ただ、コロナウイルスの関係で、日本が受け入れを表明した国からはALTも来日することができるのだが、その他の国からについてはいまだ予定が立っていない状況である。 このような中、今年の9月までに任期を満了するALTが14名いるので、まだ任期がある17名については残ることになっているが、新たなALTが何名来日できるか、という状況となっている。
委員	「国際化」は、ふわっとしていてなんとなくわかりにくいもので、そのプロセスを見ているとある程度わかりやすくなるのだが、第3次計画の施策の中の「目標」を見ていると、「この目標のために国際化に取り組んでいきましょう」というのがわかってくる。目標がはっきりとしているのはわかりやすいので、これから計画を策定するにあたって、この「目標」という柱をダイレクトに「やっていきたいこと」というものに繋げて書いていければいいと思う。

議事4

大分市の国際化推進に関するアンケート調査について

■事務局より説明

- (1) 8月にアンケート調査予定
- (2) 市民に対するアンケート調査は昨年度終了
- (3) 留学生、国際関係団体、企業向けの3種のアンケート調査票

■質疑応答

委員	留学生アンケートについては英語も併記で実施予定とのことだが、せっくなので日本語もやさしいにほんごでの実施としてほしい。 また調査対象について、大分市在の留学生としたいとのことだが、大分市在住かどうかはどのように判断するのか。
事務局	県内のすべての大学等をお願いをして、調査票の中に、どこに住んでいるかを問う設問を入れていることで判断する

委員	<p>こととしたい。そうすることで、大分県内としても留学生の動向を把握することが可能だと考えている。</p> <p>田北専門学校や大原専門学校のような各種学校にも留学生がいると思うので、そちらにもアンケートを取るようになしてください。</p> <p>アンケートは前回の内容以外にも新しい内容を入れていいのならば、せっかくならコロナで何が影響されたか、何が困っているかについても聞くといいと思う。</p>
委員	<p>留学生の属性については、30代以下の方がメインだと思われるので、データ分析としては「20代」と一括りではなくてもっと小刻みにした方がいいと思う。</p> <p>また、年齢だけではなくて、地域についても詳しいデータを集めた方がより良い分析ができると思う。</p>
委員	<p>大分市に住んで何年かの質問に関しては、APUの学生などは最大で4年間在籍することになるので、「1～4年未満」の方がよいと思った。</p> <p>また、質問の中で複数選択を「〇個まで」としているが、特段目的がなければ、回答可能個数を制限しない方がアンケートの目的に合うデータが得られるのではないかな。</p> <p>また、質問によって「その他」の後に自由記入欄があるものもないものがあるが、いずれにしても自由記入の余地を残した方がよいのではと思う。</p> <p>(※団体向け、企業向けアンケートについても同じ)</p>
事務局	<p>アンケートを作成した際に、どの設問も回答として当てはまるというものが多く、そうであれば選択肢の中でも回答数を制限して当てはまる中でも特に思いが強いものとして選択してもらえれば、ということで回答個数を制限したところである。</p> <p>質問によっても違いはあると思うが、概ね選択肢を設けない方がよいということであればそうさせていただきたい。</p>
委員	<p>例えば複数選択する際に、1番、2番、3番と優先順位をつけて回答してもらおうという手法もある。</p>
委員長	<p>大分市に住んで何年かの設問については、大学生でも大学</p>

委員	<p>院に行く場合は 4 年以上になる場合もあるので、考え直した方がいい。</p> <p>これを聞くことによって何を分析したいかを考えたときに、むしろ 1 年から 6 年まで 1 年刻みに選択してもらうようにした方が分析の幅は広がる</p>
委員長	<p>ご指摘のあった属性の条件等については、事務局は再度検討してください。</p>
委員	<p>卒業後の進路については、大分市に残るという留学生を調べたいと思うのであれば「大分に」ではなくて「大分市に」としておいたほうが良い。</p>
委員	<p>留学生も団体アンケートについても、コロナの影響について問う質問もあった方がいい。</p>
委員	<p>国際関係団体向けや企業向けについては、大分市が行っているワールドフェスタなどのイベントや助成金制度、Facebook などについて「知っているか」「活用しているか」について質問してみてはどうか。どこまで浸透しているかがわかる。</p>
委員	<p>企業アンケートの対象として「外国人技能実習生監理団体」というのがあるが、複数の団体があるのか。</p>
事務局	<p>市内には監理団体が 14 社ぐらいある。</p>
委員	<p>一般的に外国人を受け入れますか、という質問も色々と種類があるので、海外から直接技術者が欲しいとか、特定技能ビザで雇用したいとか、国内にいる外国人や留学生を雇用したい等というのがもう少しわかるといいのかなと思う。</p>
委員	<p>海外展開については、弊機構でも「中小企業 SDGs ビジネス支援事業」というものを持っており、近年この事業を活用した企業もいるので、企業向けの設問 (10) (11) の回答選択肢一つとして、弊機構名も入れてもらえるとありがたい。</p>

委員	設問の中に「中国」「香港」「台湾」とある中で、「ASEAN」としているのは、昨今ミャンマーなどが注目されている中、少々ざっくりとしすぎているのではと感じる。
委員長	大分市のグローバル戦略はどういうところに向かっていくのか、というところに多少かかわってくるので、そのニーズ調査にしたいということであれば、やはり国別に分けて質問するべきで、その結果 ASEAN が多かったという分析でいいのではないかと思う。ざっくりしすぎていると、ポイントがずれてくるかもしれない。
委員	学生アンケートでは、「どういうところが困っていますか」など否定的な設問もあるので、「どんなところが好きですか」などの肯定的な設問も加えて、出てきた答えを強みにしていくといことも考えてはどうか。
委員	大分で生活する ALT に関しては、いろいろと重要な意見を持つ方々も多いので、アンケートを取った方がいいと思う。新たに ALT 用のアンケートを作るのも大変なので、留学生アンケートに入れることができないかなと思う。
委員長	留学生と全く同じではないが、何らかの工夫をして実施できるように検討したい。
委員長	コロナ禍において、様々な企業や方々も、悩み等を抱えていたり計画を進めていくうえで支障をきたしたりしていることと思うので、その辺のこともアンケートで吸い上げてもらえると、これは国際化のアンケートの結果だがおそらく他の部署でも重要な結果を得られるアンケートになると思う。ぜひその結果の活用についても縦割りではなく、事務局には観光や企業支援の部署などとの情報の共有についてもご検討いただきたい。
委員長	委員の皆様には、アンケートについてまだご意見があろうかと思うので、本日の議論を踏まえて本委員終了後もお検討いただき、最終集約として 7/31（金）までに、修正案等を事務局までいただければと思います

副委員長	修正作業を行うということだが、委員全員が集まって会議を開くとなると時間がかかり効率も悪いので、今後の修正作業は事務局で行い、委員全員で確認するのではなく委員長の一任でご確認いただくというのはどうか。
委員長	このような手続きでよければ、委員長で責任をもって事務と連絡を取り合い修正作業と確認を実施するというようにする。副委員長にも入っていただき進めていきたいと思っておりますので、よろしくおねがいします。 (※委員異議なし)

議事5

今後のスケジュールについて

■事務局より説明

令和2年	8月	アンケート調査
	9月	アンケート分析
	10月	第2回策定委員会（アンケート調査結果報告、 計画概要・骨子審議）
	12月	第3回策定委員会（計画原案審議）
令和3年	1月	パブリックコメント実施
	2月	パブリックコメント結果報告（計画最終案）
	3月	第4次計画決定・市長へ報告

■質疑応答

	特になし
委員長	本日は、各委員の闊達なご意見をいただきましてありがとうございました。 今後もこの本日のように、忌憚のないご意見をいただいでより良いものができればと考えておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

議事 6

その他

■全体を通して

	特になし
--	------

■事務局から連絡事項

(1) 第2回策定委員会の開催について

閉 会